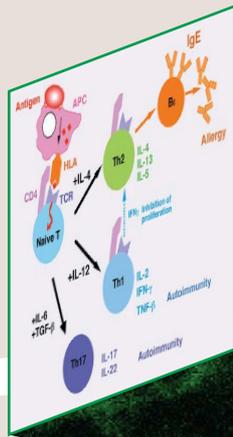


# News Letter

vol.1  
2009.4

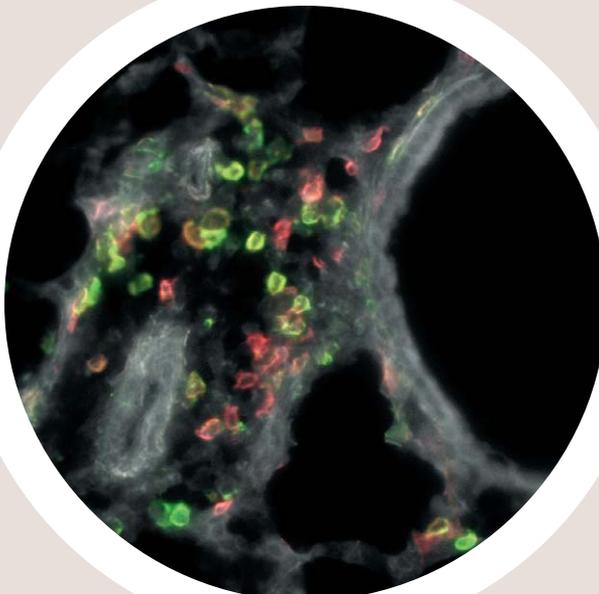


● 千葉大学グローバルCOEプログラム

## 免疫システム統御治療学の 国際教育研究拠点

### 目次

- ・ 拠点リーダーメッセージ
- ・ 拠点の概要
- ・ 研究活動と教育
- ・ グローバルCOE-CVPP
- ・ 第1回 Annual Best Research Award
- ・ 第1回シンポジウム: Immune System Regulation and Treatment
- ・ 第1回ワークショップ: LIAI-RCAI Workshop and LIAI-Chiba University Workshop
- ・ 第2回ワークショップ: Presentation and discussion by G-COE-RA



# メッセージ

拠点リーダー  
中山 俊憲

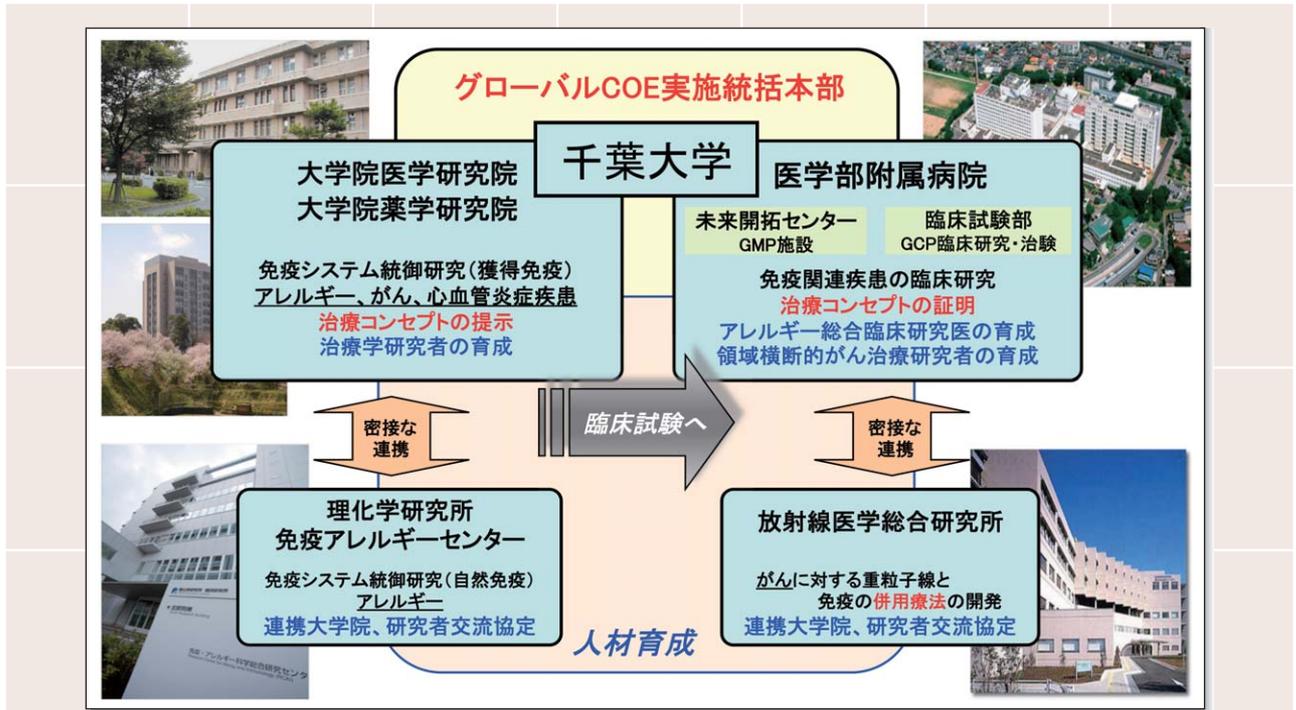


私たちの千葉大学では、平成20年度から「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」というプログラム名でグローバルCOEプログラムを推進することになりました。千葉大学医学研究院と薬学研究院、そして、理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター、放射線医学総合研究所が共同で拠点を形成します。免疫システムの研究、その統御による難治免疫関連疾患の治療研究開発を目指します。この研究活動を通して、治療学研究を担う若手研究者の育成を目指します。事業推進担当者17名、事業推進協力者20名及びコーディネーター数名が中心になり拠点を運営しますが、G-COE独立助教、G-COEフェロー、G-COE大学院生、アニュアル・ベストリサーチ・アワード、G-COE-CVPP (Chiba Visiting Professor Program) など、国際舞台で活躍できる人材育成のための数多くのユニークなプログラムが準備されています。世界的治療学研究者の育成システムの確立、新規の治療コンセプトの世界への発信、免疫システム統御治療学講座の設置、トランスレーショナルリサーチ・臨床試験・治験などの加速化とともに、これらに携わる人材育成と指導者の輩出を目指します。

このプログラムのトピックス、募集などの詳細は、ホームページを中心に紹介して参ります。興味のある学生、大学院生、若手研究者の方々は、是非、千葉大学の我々の拠点にお立ち寄り下さい。

中山 俊憲

## 免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点



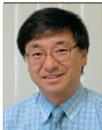
### 拠点の概要

アレルギー疾患は国民の3人に1人が罹患しているにもかかわらず、対症療法がほとんどで未だに根治療法が開発されていません。癌は国民の3人に1人の死亡原因であり、患者の高齢化に伴い良好なQOLの得られる低侵襲治療法の開発が求められています。アレルギー疾患や癌は、生体内で巧妙に調節されている免疫システムのアンバランスや破綻によって発症する、という共通の病因論的特徴があり、これらの疾患の発症機序に関してこれまでに免疫学は分子・遺伝子レベルでの膨大な研究成果をあげてきました。その結果、「免疫システム統御」という視点に立脚した疾患治療法を開発できる段階に至っています。そこで、世界でも例をみない免疫システム統御による治療学の卓越した国際教育研究拠点を形成し、難治免疫関連疾患（アレルギー、癌、血管炎、動脈硬化など）を対象にした治療学研究を推進します。これらの研究活動を通して、免疫システム統御と免疫治療に関する統合的な知識と方法論を修得し、1. 新たな視点から独創的な研究を遂行する能力、2. アレルギー総合臨床治療研究や領域横断的な癌臨床治療研究を行う能力、3. 国際舞台で活躍する能力を持つ、治療学研究を行う若手研究者の育成を目ざします。

基礎研究の成果の臨床応用は、千葉大学医学部附属病院内の臨床試験部と未来開拓センターを中心に行います。これまでの卓越した臨床研究の実績によって、医学部附属病院は平成19年から全国10箇所ある「治験・臨床研究の推進をはかる中核病院」に指定されています。連携して拠点を形成する理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター（理研免疫アレルギーセンター）とは、教育上（連携大学院）のみならず、アレルギーの治療シーズを実用化すべく共同でトランスレーショナルリサーチを積極的に進めます。平成19年からは「千葉大学-理化学研究所研究者交流協定」を結び、若手研究者の施設間交流を強化してきましたが、理研の場を利用して千葉大学の大学院生や若手研究者の育成を加速させます。放射線医学総合研究所（連携大学院）は、世界No.1の重粒子線治療の実績を持つ先進的癌治療研究施設で、千葉大学と密接に連携して21世紀COEプログラムを推進してきました。本拠点では、連携して重粒子線治療と免疫細胞療法の併用という世界で初めてのアプローチを中心とした癌の低侵襲治療法の開発研究と若手人材育成を行います。

# メンバー

## 事業推進担当者



**中山 俊憲**  
千葉大学大学院医学研究院  
免疫発生学・教授



**小室 一成**  
千葉大学大学院医学研究院  
循環病態医科学・教授



**徳久 剛史**  
千葉大学大学院医学研究院  
分化制御学・教授



**羽田 明**  
千葉大学大学院医学研究院  
公衆衛生学・教授



**中島 裕史**  
千葉大学大学院医学研究院  
遺伝子制御学・教授



**河野 陽一**  
千葉大学大学院医学研究院  
小児病態学・教授



**松江 弘之**  
千葉大学大学院医学研究院  
皮膚科学・教授



**岡本 美孝**  
千葉大学大学院医学研究院  
耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学・教授



**丹沢 秀樹**  
千葉大学大学院医学研究院  
臨床分子生物学・教授



**本橋 新一郎**  
千葉大学大学院医学研究院  
免疫細胞医学・准教授



**武城 英明**  
千葉大学大学院医学研究院  
臨床遺伝子応用医学・教授



**千葉 寛**  
千葉大学大学院薬学研究院  
薬物学・教授



**堀江 利治**  
千葉大学大学院薬学研究院  
生物薬剤学・教授



**谷口 克**  
理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター・  
センター長  
千葉大学・名誉教授



**小原 収**  
理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター  
免疫ゲノミクス研究グループ・グループディレクター  
千葉大学大学院薬学研究院 遺伝子創薬学・客員教授



**辻井 博彦**  
放射線医学総合研究所・理事  
千葉大学大学院医学研究院 放射線防御機能学・客員教授  
2009年3月まで



**鎌田 正**  
放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター・  
センター長  
千葉大学大学院医学研究院 放射線防御機能学・客員教授



**馬場 雅行**  
放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター病院  
治療課長  
2009年4月から

## コーディネーター



**鈴木 和男**  
千葉大学大学院医学研究院  
免疫発生学・炎症制御学・特任教授

# メンバー

## 事業推進協力者

### 岩間 厚志

千葉大学大学院医学研究院  
細胞分子医学・教授

### 齋藤哲一郎

千葉大学大学院医学研究院  
発生生物学・教授

### 幡野 雅彦

千葉大学大学院医学研究院  
疾患生命医学・教授

### 松原 久裕

千葉大学大学院医学研究院  
先端応用外科学・教授

### 張ヶ谷健一

千葉大学大学院医学研究院  
腫瘍病理学・教授

### 横須賀 収

千葉大学大学院医学研究院  
腫瘍内科学・教授

### 北田 光一

千葉大学医学部附属病院  
薬剤部・部長

### 吉野 一郎

千葉大学大学院医学研究院  
胸部外科学・教授

### 中谷 晴昭

千葉大学大学院医学研究院  
薬理学・教授

### 山下 政克

千葉大学大学院医学研究院  
免疫発生学・准教授

### 下条 直樹

千葉大学大学院医学研究院  
小児病態学・准教授

### 鈴木 洋一

千葉大学大学院医学研究院  
公衆衛生学・准教授

### 神戸 直智

千葉大学大学院医学研究院  
皮膚科学・講師

### 花岡 英紀

千葉大学医学部附属病院  
臨床試験部・講師

### 渡邊 紀彦

千葉大学医学部附属病院  
アレルギー・膠原病内科・講師

### 横手幸太郎

千葉大学大学院医学研究院  
細胞治療学・教授

### 田中 知明

千葉大学医学部附属病院  
糖尿病・代謝・内分泌内科・助教

### 山口 直人

千葉大学大学院薬学研究院  
分子細胞生物学・教授

### 小林 弘

千葉大学大学院薬学研究院  
生化学・教授

### 中川原 章

千葉県がんセンター・センター長  
千葉大学大学院医学研究院 分子腫瘍生物学・客員教授

## 国際外部評価委員

### Alfred Singer

Chief, Experimental Immunology Branch, National Institutes of Health (NIH)

### Dinah Singer

Director, Division of Cancer Biology, National Cancer Institutes, NIH  
Senior Investigator, Head, Molecular Regulation Section, NIH

### Andreas Radbruch

Scientific Director, German Rheumatology Research Center Berlin (DRFZ)

### Steven L Reiner

Professor, Division of Infectious Diseases and Abramson Family Cancer  
Research Institute, University of Pennsylvania

### James Kuang-Jan Liao

Director, Vascular Medicine Research, Brigham & Women's Hospital  
Associate Professor of Medicine, Harvard Medical School

### 垣生 園子

順天堂大学大学院医学研究院・教授

### 山本 一彦

東京大学大学院医学系研究科・教授

### 小池 隆夫

北海道大学大学院医学研究科・教授

### 清野 宏

東京大学医科学研究所・教授

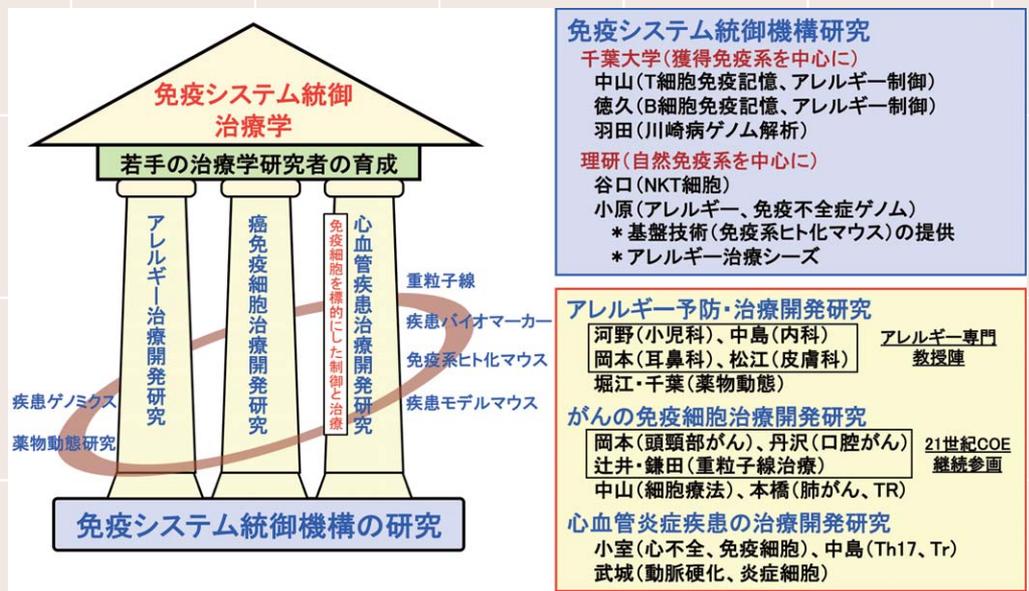
### 齋藤 能彦

奈良県立医科大学・教授

## 研究活動の概要

千葉大学大学院医学研究院は、日本でトップレベルの実績のある免疫学・アレルギー学の基礎研究者に加え、高度のアレルギー治療研究を行う専門家集団（内科、小児科、耳鼻科、皮膚科など）を形成しています。また、本G-COE拠点では、癌の治療研究について21世紀COEプログラムを継承した形での研究体制を取っています。1. 免疫システムの統御機構の研究、疾患ゲ

ノミクス、ファーマコゲノミクスや薬物動態学研究等の基礎研究を横糸に、縦糸として最新の研究成果（エビデンス）に基づいた、2. 免疫システム統御によるアレルギー予防・治療法の開発研究、3. 癌の免疫細胞療法の開発研究、4. 免疫システムの関与する心血管疾患の発症機序と制御法に関する研究を推進し、新しい治療学分野を樹立します。それぞれの分野の概要、担当を下図に紹介します。



## 人材育成

### 大学院・ポスドク教育

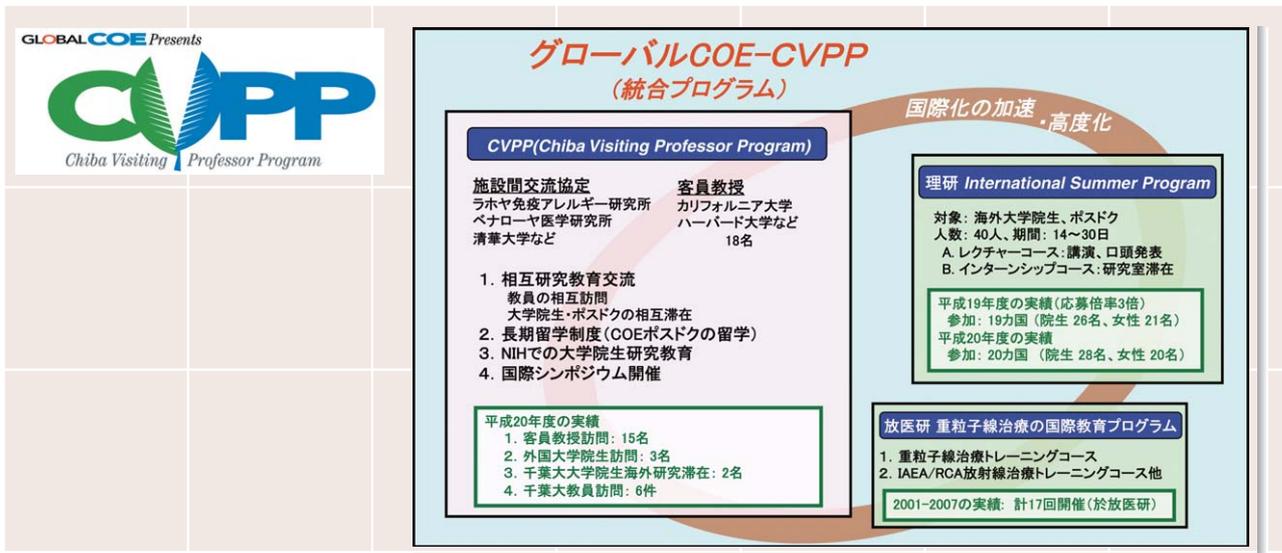
領域横断的な公募によって関連領域の大学院生をG-COE大学院生として支援を行い、拠点プログラムに参加してもらいます。G-COE大学院生については指導教授の他に2名の関連分野の教員が担当となり、総合的な指導を行います。研究プロポーザルを審査し「萌芽研究レベルの独自研究資金」を与えます。また、特に優秀な大学院生には、アニュアル・ベストリサーチ・アワードを与え、研究へのモチベーションを高揚させます。COEフェローを選定し雇用するとともに、グローバルCOE実施統括本部が直接、助言や成果報告の評価を行います。大学院生・若手研究者の国際化教育の推進のため、すでに学

長裁量経費で独自に実施しているCVPP（海外から18名の客員教授、准教授が参画し、学生や若手研究者、教員が相互滞在をするプログラム）を理研免疫アレルギーセンターや放射線医学総合研究所の独自プログラムと融合させグローバルCOE-CVPPとして発展させます。

### 若手研究者の独立支援

研究環境に関して独立性を保証されたCOE独立助教を数名任用します。3-5年の研究期間を経た後に、千葉大学にある研究准教授・研究教授（テニュア・トラック）や准教授・教授（テニュア）への昇進を推進します。他の方向に進む若手研究者のキャリアパスの方策もグローバルCOE実施統括本部が責任をもって行います。

## 国際的に活躍できる人材育成システム



千葉大学大学院医学研究院では、独自に外国の研究機関との連携体制：CVPP（Chiba Visiting Professor Program）を構築し、大学院生や若手研究者の国際化教育を取り入れた若手研究者育成を推進してきました。CVPPをグローバルCOE-CVPPとして発展させ、大学院教育や若手研究者育成に関してさらなる国際化の加速、グローバル化をはかります。G-COEプログラムでは、千葉大学を中心に行うCVPPに加え、理研免疫アレルギーセンターを中心にRCAI international summer programを、放射線医学総合研究所を中心に重粒子線治療の国際トレーニングプログラムを共同開催します。

### 1. CVPP

カリフォルニア大学、ワシントン大学、コロラド大学、ハーバード大学、ケンブリッジ大学、ジュネーブ大学、北京大学、NIHに所属する研究者を中心に、18名の客員教授、客員准教授がCVPPに参画しています。これらの教授陣が所属する複数の施設および中国を含むアジアの大学とは施設間協定も結び組織的に交流を行います。これまでのCVPPの活動は、参画している客員教授・准教授が、毎年数日から2週間千葉大学に滞在し、講演・研究討論・少人数ワークショップ等を行い、大学院生（演習の単位として認定）・ポストクが独自の研究内容を発表し、アドバイスを受けています。さらに、本G-COE拠点では、大学院生・ポストクが客員教授・准教授の施設を中心に2週間から3ヶ月の短期の海外研究滞在进行して、国際的な環境下での研究活動を早期

から実体験しています。大学院生やポストクの知の研鑽のため2-3年の長期派遣も行います。CVPPコーディネーターを中心に、若手研究者が積極的に参加できるプログラムを備えた国際シンポジウムを毎年企画立案し実施します。

### 2. RCAI international summer program

理研免疫アレルギーセンターを中心に、海外の大学院生やポストクを対象にして毎年40名の規模で2-4週間のサマープログラムを行います。レクチャーコースでは講師による講演、参加者の口頭やポスターでの研究発表、インターンシップコースでは、研究室に滞在して実際に実験を行います。H19年度は応募倍率が3倍にもなる人気で、19カ国から43名が参加し、そのうち大学院生26名、女性の参加者21名でした。H20年度は20カ国から参加があり、大学院生28名、女性の参加者は20名でした。世界に開かれた形で若手研究者の双方向の流動性を促進します。やがては海外からの優秀な頭脳の獲得、リクルートにも結びつくと考えています。

### 3. 重粒子線治療の国際トレーニングプログラム

放射線医学総合研究所を中心に、毎年IAEA/RCA放射線治療トレーニングコース、重粒子線治療のワークショップ等の治療普及活動を全世界に開かれた形で開催します。これまでの実績としては、2000年からの開催は計17回を数え、2000年以降220名以上の外国人研究者が短期滞在型研修を経験しました。今後、さらに拡大発展させ「グローバルCOE-重粒子線治療トレーニングコース」として充実を図ります。

# CVPPメンバー

## Visiting Professor



### Mitchell Kronenberg

President and Scientific Director, Member and Division Head, Division of Developmental Immunology, La Jolla Institute for Allergy & Immunology  
Adjunct Professor of Biology, University of California, San Diego



### Hilde Cheroutre

Member, Division of Developmental Immunology, La Jolla Institute for Allergy & Immunology



### Toshiaki Kawakami

Member, Division of Allergy, La Jolla Institute for Allergy & Immunology  
Adjunct Professor, Department of Medicine, University of California, San Diego,  
Associate Member, Hematologic Malignancies Program, The Moores UCSD Cancer Center



### Stephen Philip Schoenberger

Member, Laboratory of Cellular Immunology, La Jolla Institute for Allergy & Immunology  
Adjunct Associate Professor, Division of Hematology and Oncology, Department of Medicine, University of California, San Diego



### Shane Crotty

Assistant Member, Division of Vaccine Discovery, La Jolla Institute for Allergy & Immunology  
Adjunct Assistant Professor, Department of Medicine, University of California, San Diego



### Steven F Ziegler

Member and Director, Immunology Program, Benaroya Research Institute  
Affiliate Professor, Department of Immunology, University of Washington



### Daniel J Campbell

Assistant Member, Immunology Program, Benaroya Research Institute



### Erwin W Gelfand

Professor and Chairman, Department of Pediatrics, Division of Cell Biology, National Jewish Health,  
Professor of Pediatrics and Immunology, University of Colorado School of Medicine, Denver Colorado



### Philippa Marrack

Distinguished Professor of the University of Colorado  
Professor, Integrated Department of Immunology, University of Colorado Health Science Center (UCHSC) and National Jewish Health  
Professor, Department of Biochemistry and Molecular Genetics, UCHSC



### Laurent Gapin

Assistant Professor, University of Colorado Health Science Center and National Jewish Health



### Dale T Umetsu

Prince Turki Bin Abdul Aziz al Saud Professor of Pediatrics, Children's Hospital Boston, Harvard Medical School



### Anjana Rao

Senior Investigator, Immune Disease Institute (IDI), Harvard Medical School  
Professor, Department of Pathology, Harvard Medical School



### William E Paul

Chief, laboratory of Immunology, National Institute of Allergy and Infectious Diseases (NIAID), National Institutes of Health (NIH)



### John Joseph O'Shea Jr.

Scientific Director, National Institute of Arthritis and Musculoskeletal and Skin Diseases (NIAMS), National Institutes of Health (NIH) Chief, Molecular Immunology and Inflammation Branch, NIAMS, NIH



### Remy Bosselut

Senior Investigator, Laboratory of Immune Cell Biology, National Cancer Institute, National Institutes of Health (NIH)



### David R W Jayne

Consultant in Nephrology and Vasculitis, Department of Medicine, Addenbrooke's Hospital, University of Cambridge, UK



### Karl-Heinz Krause

Professor of Medicine, Department of Pathology and Immunology, Faculty of Medicine, University of Geneva



### Ming-hui Zhao

Chief, Renal Division, Department of Medicine, Peking University First Hospital  
Institute of Nephrology, Peking University  
Key Laboratory of Renal Disease, Ministry of Health of China

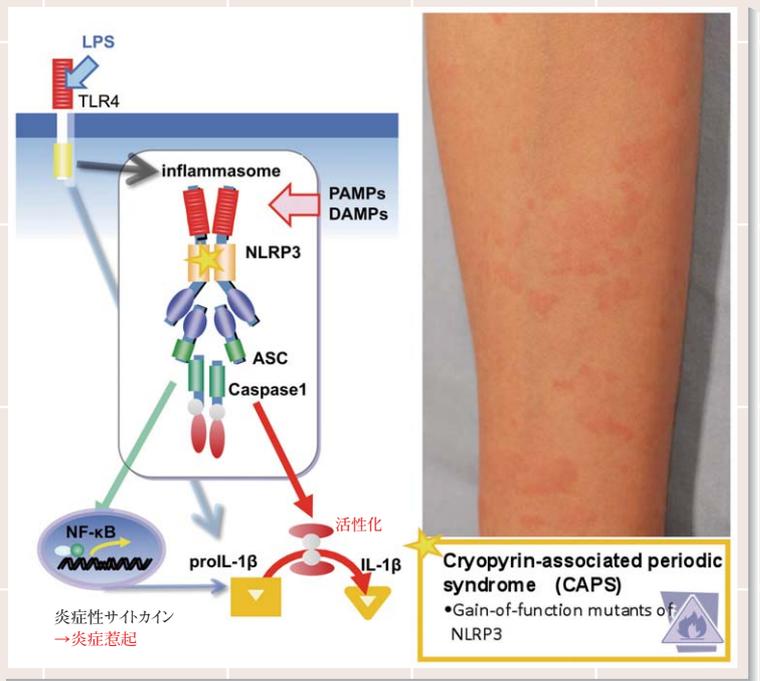


中村 悠美

千葉大学大学院医学研究院皮膚科学

## *Mast cells mediate neutrophil recruitment and vascular leakage through the NLRP3 inflammasome in histamine-independent urticaria*

Cryopyrin関連周期熱症候群 (CAPS) は、蕁麻疹を特徴とする遺伝性疾患である。原因遺伝子NLRP3は細胞内パターン認識受容体であり、CAPSでは蛋白複合体inflammasomeを形成しIL-1 $\beta$ 産生が恒常的に誘導されており、臨床症状の改善には抗IL-1療法が奏効する。我々は患者皮膚でIL-1 $\beta$ を発現する細胞が肥満細胞 (MCs) であることを同定し、さらに培養MCsで検討すると、MCsはNlrp3 inflammasome依存性にIL-1 $\beta$ を産生することを明らかにした。CAPS患者に認められる遺伝子変異を導入したNlrp3はNF- $\kappa$ B転写を恒常的に亢進し、さらにこれを導入したMCsはマウス生体内でIL-1 $\beta$ 発現を増強するとともに、好中球性炎症と血管透過性の亢進を誘導した。以上の結果は、蕁麻疹反応におけるIL-1 $\beta$ 産生細胞としてのMCsの関与を示唆すると共に、抗ヒスタミン薬無効の蕁麻疹の中にinflammasomeを介してMCsが産生するIL-1 $\beta$ 依存性のものが存在する可能性も示唆すると考えた。(J. Exp. Med. 2009; 206(5): 1037-1046)



## G-COEリサーチ・アシスタントメンバー

### G-COE-RA 2008

宮嶋 篤志	薬物学
寺田 二郎	自律機能生理学
木下 香	小児病態学
吉川 直子	耳鼻咽喉科学
柏熊 大輔	遺伝子制御学
加野 将之	先端応用外科学
森谷 純治	循環病態医学
内山 雷太	循環病態医学
黒崎 元良	耳鼻咽喉科学
馬 光宇	環境影響生化学

鈴木 茜	免疫発生学
遠藤 裕介	免疫発生学
篠田 健太	免疫発生学
岩田 有史	細胞治療学
佐藤 正子	公衆衛生学
篠塚 啓二	臨床分子生物学
伊狩 潤	分化制御学
袁 璿	細胞分子医学
桑原 誠	免疫発生学
池田喜久子	分子細胞生物学

# Immune System Regulation and Treatment

日時：2009年1月6日 場所：東京ステーションコンファレンス



齋藤 康  
(千葉大学)



Mitchell Kronenberg  
(LIAI)

第1回千葉大学グローバルCOEシンポジウム“Immune System Regulation and Treatment”は理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター(RCAI)及び米国La Jolla Institute for Allergy & Immunology(LIAI)との共催で開催された。

齋藤康学長及び徳久剛史医学研究院長からの開会の挨拶、中山俊憲拠点リーダーによる本プログラム概要説明の後、Mitchell Kronenberg博士(米国LIAI所長)が“Activation of invariant NKT cells by microbes and microbial products”と題し基調講演を行った。

大学内外より120名が参加、本プログラムにて施設間協定を結んでいる米国LIAIとBenaroya Research Instituteの研究者6名を招き、拠点の研究活動3分野における中心メンバーが最新の研究成果を報告、活発な質疑応答が行われた。当拠点活動スタートとして有意義な会合となり今後の研究推進に大きな弾みをつけた。



## Program

### Opening Remarks

Yasushi Saito(Chiba Univ)  
Takeshi Tokuhisa(Chiba Univ)  
Toshinori Nakayama(Chiba Univ)

### Keynote Address

Mitchell Kronenberg(LIAI)

### Session I: Immune System Regulation

Steven F. Ziegler(BRI)  
Hiroshi Nakajima(Chiba Univ)  
Masaru Taniguchi(RCAI)  
Dirk Zajonc(LIAI)

### Session II: Immunological Memory

Toshinori Nakayama(Chiba Univ)  
Takeshi Tokuhisa(Chiba Univ)  
Stephen P. Schoenberger(LIAI)

### Session III: Allergy and Vascular Diseases

Toshiaki Kawakami(LIAI)  
Klaus Ley(LIAI)  
Issei Komuro(Chiba Univ)

### Session IV: Clinical Application

Shinichiro Motohashi(Chiba Univ)  
Tadashi Kamada(NIRS)  
Yoshitaka Okamoto(Chiba Univ)

### Closing Remarks

Yoichi Kohno(Chiba Univ)



Steven F. Ziegler



中山 俊憲



徳久 剛史



小室 一成



河野 陽一



谷口 克



鎌田 正



鈴木 和男

# 第1回 千葉大学グローバルCOEプログラムワークショップ

## LIAI-RCAI Workshop and LIAI-Chiba University Workshop

日時：2009年1月7日、8日

場所：独立行政法人理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター  
千葉大学医学部附属病院 第1講堂

理化学研究所及び千葉大学の2会場で開催された。千葉大学では73名の参加があった。本ワークショップは本拠点人材育成の核となるCVPP (Chiba Visiting Professor Program) 活動の一環として催され、海外のCVPP客員教授、准教授講演のほか、公募によって選ばれた大学院生など若手研究者による発表が行われた。質疑ではCVPP

教授陣から実用的、示唆に飛んだアドバイスを頂いた。翌8日はディスカッションツアーがあり、免疫発生学教室など5研究室において、CVPP教授陣による指導、討論が行われた。日頃の研究についてのディスカッションでは学生達の意欲ある発言に今後の発展が期待できた。

### Program

Coordinated by Kazuo Suzuki

#### January 7

##### Lecture and Discussion I

Chair: S. Motohashi, K. Suzuki, T. Tokuhisa  
Speaker: M. Kronenberg, T. Kawakami, S. Ziegler

##### Presentation and Discussion I

Chair: H. Nakajima  
Speaker: M. Arima, N. Watanabe, H. Bujo

##### Presentation and Discussion II

Chair: T. Nakayama  
Speaker: N. Shimojo, T. Arima, Y. Nakamura,  
T. Fujimura, G-COE graduate students\*

##### Presentation and Discussion III

Chair: A. Iwama  
Speaker: H. Yamashita, H. Takano, T. Tanaka  
G-COE graduate students\*

\*Call for contributions

#### January 8

##### Lecture and Discussion II

Chair: K. Suzuki, M. Yamashita  
Speaker: K. Ley, S. Schoenberger

##### Small Group Discussion

Five groups, 1 hour per each visiting professor  
Free discussion

## 第2回

# 千葉大学グローバルCOEプログラムワークショップ

## “Presentation and discussion by G-COE-RA”

日時：2009年2月21日

場所：千葉大学医学部本館1階 第2講義室

当拠点の国際的人材育成活動の一環として、グローバルCOE RA全員による英語での研究発表、討論を行う第2回ワークショップが開催された。各発表では指導教員の他、2名のアドバイザーより助言を頂いた。本ワークショップはすべて英語で行われ、英語での発表経験を重ねる良い機会になるとの感想も寄せられた。参加者は92名に及び、グローバルCOE RAの発表について関心の高さを示した。

また、口頭発表時のビデオ撮影を試みた。この映像は英語力のほかに発表時の振る舞い方など、国際的コミュニケーションのスキルアップが図れるよう各人に配布された。次の発表が待たれる。



柏熊 大輔



袁 璵



森谷 純治



桑原 誠



内山 雷太



吉川 直子



伊狩 潤



篠塚 啓二



### PROGRAM

Coordinated by Kazuo Suzuki

Saturday, February 21

Chair: Kazuo Suzuki

Opening remarks by Toshinori Nakayama  
Program Leader

#### Session I

Chair: Toshinori Nakayama

**Atsushi Miyajima**  
Lab. of Pharmacology and Toxicology  
“Epigenetic regulation of pharmacokinetics-associated gene expression by DNA methylation”

**Jiro Terada**  
Dept. of Autonomic Physiology  
“Molecular mechanisms of cell-cell communication in pancreatic islets -A clue essential for renovating islets in autoimmune diabetes mellitus-”

**Kaori Kinoshita**  
Dept. of Pediatrics  
“Research on the mechanism of tissue-specific imprinting in human GNAS gene”

**Naoko Kikkawa**  
Dept. of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery  
“Identification of novel therapeutic microRNAs in head and neck squamous cell carcinoma”

**Daisuke Kashiwakuma**  
Dept. of Molecular Genetics  
“Development and characterization of IL-21-producing CD4<sup>+</sup> T cells”

#### Session II

Chair: Kazuo Suzuki

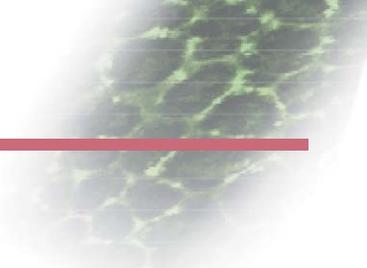
**Masayuki Kano**  
Dept. of Frontier Surgery  
“Development of a novel cancer vaccination using heat shock protein Gp96”

**Junji Moriya**  
Dept. of Cardiovascular Science and Medicine  
“A pathological role of Semaphorin3E/PlexinD1 in impaired angiogenesis of diabetes”

**Raita Uchiyama**  
Dept. of Cardiovascular Science and Medicine  
“Effect of granulocyte colony-stimulating factor on atherosclerosis in Apolipoprotein E-deficient mice”

**Motoyoshi Kurosaki**  
Dept. of Otorhinolaryngology  
“Migration of  $\alpha$ -Galcer-pulsed antigen presenting cells after submucosal or subcutaneous injection in patients with head and neck cancer”

**Guangyu Ma**  
Dept. of Environmental Biochemistry  
“Novel immune gene therapy for malignant tumors”



**Session III**      **Chair: Takeshi Tokuhisa**

**Akane Suzuki**  
*Dept. of Immunology*  
“Polycomb group gene product Ring1B regulates Th2-dependent airway inflammation through the control of Th2 cell differentiation and apoptosis”

**Yusuke Endo**  
*Dept. of Immunology*  
“Identification of IL-5 producing CD62L<sup>+</sup> CXCR3<sup>+</sup> memory Th2 cells and their roles in allergic airway inflammation”

**Kenta Shinoda**  
*Dept. of Immunology*  
“Role of CD69 for the generation and function of memory CD4 T cells”

**Arifumi Iwata**  
*Dept. of Allergy and Clinical Immunology*  
“Protective roles of B and T lymphocyte attenuator (BTLA) in NKT cell-mediated experimental hepatitis”

**Masako Kimura-Sato**  
*Dept. of Public Health*  
“The role of matrix metalloproteinase (MMP)-3 in the pathophysiology of bronchial asthma”



遠藤 裕介



池田喜久子



黒崎 元良



佐藤 正子



岩田 有史



馬 光宇

**Session IV**      **Chair: Hiroshi Nakajima**

**Keiji Shinozuka**  
*Dept. of Clinical Molecular Biology*  
“Identification of Cisplatin-resistance related genes in head and neck squamous cell carcinoma”

**Jun Ikari**  
*Dept. of Developmental Genetics*  
“A critical role of Bcl6 in expression of the CC-type chemokine genes and pulmonary epithelial cell-mediated inflammation”

**Jin Yuan**  
*Dept. of Cellular and Molecular Medicine*  
“Role of Bmi1 in leukemic stem cell”

**Makoto Kuwahara**  
*Dept. of Immunology*  
“Regulation of GATA3-dependent immune responses by the transcription factor Sox4”

**Kikuko Ikeda**  
*Dept. of Molecular Cell Biology*  
“Trafficking of Lyn tyrosine kinase to the Golgi and the nucleus”



宮嶋 篤志



篠田 健太



鈴木 茜



寺田 二郎



加野 将之



# G-COEセミナー

**G-COEセミナー**

平成20年12月5日(金)  
17:00 - 18:00  
医学部附属図書館 3階  
ライブラリーホール

**Transcriptional and epigenetic regulation of helper T cell differentiation**

**Dr. John Joseph O'Shea Jr.**

Visiting Professor, Chiba University  
Scientific Director, National Institute of Arthritis and Musculoskeletal and Skin Diseases (NIAMS), National Institute of Health (NIH)

主催: グローバルCOEプログラム  
共催: 千葉バイオサイエンス研究会  
連絡先: 中山俊憲 (千葉大学大学院医学研究部 免疫発生学)  
TEL043-226-2185 内線5500

**G-COEセミナー**

平成21年3月30日(月)  
17:00 - 18:00  
第2講義室

**Antigen Recognition by INKT cells and Repertoire Formation**

**Dr. Laurent Gapin**

Associate Professor, University of Colorado, Denver and National Jewish Health  
Visiting Associate Professor, Chiba University

主催: グローバルCOEプログラム  
共催: 千葉バイオサイエンス研究会  
連絡先: 中山俊憲 (千葉大学大学院医学研究部 免疫発生学)  
TEL043-226-2185 内線5500

**G-COEセミナー**

平成21年3月31日(火)  
17:00 - 18:00  
大カンファレンスルーム

**Family feuds: Invariant NKT cells, their relatives, neighbors, and efforts to exploit them**

**Dr. Mark Exley**

Assistant Professor of Medicine, Cancer Biology, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School

主催: グローバルCOEプログラム  
共催: 千葉バイオサイエンス研究会  
連絡先: 中山俊憲 (千葉大学大学院医学研究部 免疫発生学)  
TEL043-226-2185 内線5500

**G-COEセミナー**

平成21年4月3日(金)  
17:00-18:00  
大カンファレンスルーム

Programmed migration of antigen-specific CD8<sup>+</sup> T cells to the lung airways following respiratory virus infection

**Dr. Shiki Takamura**

Assistant Professor  
Department of Immunology,  
Kinki University School of Medicine  
主催: グローバルCOEプログラム  
共催: 千葉バイオサイエンス研究会  
連絡先: 中山俊憲 (千葉大学大学院医学研究部 免疫発生学)  
TEL043-226-2185 内線5500

**G-COEセミナー**

平成21年4月24日(金)  
17:00 - 18:00  
第2講義室

**NotchシグナルによるTリンパ球エフェクター機能制御**

**Dr. 安友 康二**

徳島大学大学院教授  
ヘルスバイオサイエンス研究部  
生体防御医学

主催: グローバルCOEプログラム  
共催: 千葉バイオサイエンス研究会  
連絡先: 中山俊憲 (千葉大学大学院医学研究部 免疫発生学)  
TEL043-226-2185 内線5500

# アレルギークリニカルカンファレンス

コーディネーター 中島裕史

**第1回アレルギークリニカルカンファレンス**

アレルギー疾患に興味のある臨床医、研究者、大学院生、研修医、医学生を対象に、下記の通り、アレルギークリニカルカンファレンスを開催いたします。

本カンファレンスは、アレルギー疾患の診療に関する各診療科の特色を踏まえた議論を遂行するため、グローバルCOE主催で年一回、開催しています。

各議題とプレゼンテーションの分付録10分を予定しています。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

●日 時: 平成21年1月28日(水) 18:00より  
●会場: 千葉大学医学部附属病院 第1講堂

- 「経鼻接種をともなったIgE関連疾患の例」  
アレルギー・膠原病内科 加々美新一郎 先生
- 「小児の慢性咳嗽」  
小児科 森田 聖紀 先生
- 「スギ花粉症に対する舌下免疫治療臨床試験」  
耳鼻咽喉科 堀口 直俊 先生
- 「Muckle-Wells症候群の例」  
皮膚科 神戸 直智 先生

【主催】 グローバルCOEプログラム  
問い合わせ先: 中島裕史 (COE教育担当)  
千葉大学大学院医学研究部 遺伝子制御学  
TEL 043-226-2188 FAX 032-226-2199

**第2回アレルギークリニカルカンファレンス**

アレルギー疾患に興味のある臨床医、研究者、大学院生、研修医、医学生を対象に、下記の通り、第2回アレルギークリニカルカンファレンスを開催いたします。

本カンファレンスは、アレルギー疾患の診療に関する各診療科の特色を踏まえた議論を遂行するため、グローバルCOE主催で年一回、開催しています。

各議題とプレゼンテーションの分付録10分を予定しています。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。参加は無料です。

●日 時: 平成21年4月15日(水) 18:00より  
●会場: 千葉大学医学部附属病院 第1講堂

- 「メタゲノムによる腸菌叢型異動」  
徳島赤十字病院 皮膚科 大野 綾子 先生
- 「リウマチ診療における超音波検査の有用性」  
アレルギー・膠原病内科 池田 啓 先生
- 「ハウスダストエキスをを用いた舌下免疫治療」  
耳鼻咽喉科 米倉 修二 先生
- 「アトピー性皮膚炎発症と皮膚免疫ゲノム解析の関連」  
小児科 有馬 雅史 先生

【主催】 グローバルCOEプログラム  
問い合わせ先: 中島裕史 (COE教育担当)  
千葉大学大学院医学研究部 遺伝子制御学  
TEL 043-226-2188 FAX 032-226-2199

# Basic Science Joint Meeting (BSJM)

大学院生主催セミナー 代表小野寺淳

**第1回BSJM**  
11月21日(金) 17:00-18:00  
三木隆司 自律機能生理学 教授

**第2回BSJM**  
12月5日(金) 17:00-18:00  
John Joseph O'Shea Jr, Scientific Director, National Institute of Arthritis and Musculoskeletal and Skin Diseases (NIAMS), NIH, USA Visiting Professor, Chiba University

**第3回BSJM**  
12月12日(金) 17:00-18:00  
本橋新一郎 免疫細胞医学 准教授

**第4回BSJM**  
1月9日(金) 18:00-19:00  
稲葉カヨ 京都大学大学院生命科学研究所 生体応答学 分野 教授

**第5回BSJM**  
1月16日(金) 17:00-18:00  
遠山大介 神経生物学 大学院生

**第6回BSJM**  
2月13日(金) 17:00-18:00  
有馬雅史 分化制御学 講師

**第7回BSJM**  
2月27日(金) 17:00-18:00  
Damon Tumes免疫発生学 ポスドク

**第8回BSJM**  
3月6日(金) 17:00-18:00  
岩田有史 細胞治療学 大学院生

**第9回BSJM**  
4月3日(金) 17:00-18:00  
高村史記 近畿大学医学部免疫学教室 助教

**第10回BSJM**  
4月10日(金) 17:00-18:00  
藤村理紗 バイオメディカル研究センター 助教

**第11回BSJM**  
4月17日(金) 17:00-18:00  
常世田好司 免疫発生学 特任助教

**第12回BSJM**  
4月24日(金) 17:00-18:00  
安友康二 徳島大学大学院 教授  
ヘルスバイオサイエンス研究部 生体防御医学

Seminar

Conference

## イベント情報

### 第2回千葉大学グローバルCOEプログラムシンポジウム "Differentiation and Function of Lymphocytes"

日時: 2009年5月29日

場所: 千葉大学医学部附属病院第1講堂

### 第3回千葉大学グローバルCOEプログラムワークショップ

日時: 2009年5月30日

場所: 千葉大学医学部本館

### 第4回千葉大学グローバルCOEプログラムワークショップ (Presentation and discussion by G-COE-RA)

日時: 2009年6月13日

場所: 千葉大学医学部本館第1講義室

### RCAI International Summer Program 2009 (グローバルCOEプログラム共催)

日時: 2009年7月3日～10日

場所: 理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター

### 千葉大学グローバルCOEプログラムリトリート2009

日時: 2009年9月5日～6日

場所: 生命の森リゾート日本エアロビクスセンター

### 第3回千葉大学グローバルCOEプログラムシンポジウム

日時: 2009年11月6日

場所: 千葉大学

### 第5回千葉大学グローバルCOEプログラムワークショップ (Presentation and discussion by G-COE-RA)

日時: 2010年2月20日

場所: 千葉大学医学部第1講義室

## 事務局

この4月にG-COE事務局が医学部本館1階、経営グループの隣に開設されました。お気軽にお問合せください。



中里 高柳 中村

### グローバルCOE事務局

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

Tel: 043-226-2515 Fax: 043-226-2503

e-mail: igaku-gcoejimu@office.chiba-u.jp

URL: <http://www.isrt-gcoe-chiba.jp>

### 【編集後記】

本グローバルCOEプログラムがスタートして、最初のニュースレターをお届けします。内容は、創刊号ということもあり、グローバルCOEの概要やメンバー紹介、シンポジウム、ワークショップ、セミナーのプログラムの内容を写真を使いながら簡単にわかりやすく記載しました。国際拠点としての機能を推進するため、日本語版と英語版の両方作成しました。体裁は、4月号ということも意識して医学部と病院間の桜並木の桜色をベースにしました。このニュースレターは、若い医学研究の大学院生やポスドクの方々が将来世界の一線で活躍できるように、研究の推進と情報発信をするための、よき情報源の1つとして企画しました。第一号の本企画プログラムに参画・協力していただいた皆様に感謝します。次号は、より内容を充実して、より読みやすいニュースレターにしていきたいと思っていますので、ご協力をお願いします。

千葉大学グローバルCOEプログラム  
コーディネーター 鈴木和男

## 千葉大学グローバルCOEプログラム

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

Tel: 043-226-2515 Fax: 043-226-2503

e-mail: [igaku-gcoejimu@office.chiba-u.jp](mailto:igaku-gcoejimu@office.chiba-u.jp)

URL: <http://www.isrt-gcoe-chiba.jp>

